



～人と社会をつなぐ～

# KATARIBA Café えそら

(特定非営利活動法人 T・M・F)

## シリーズ「地場産業を知ろう」第10回 学生レポート

市民の方に地場産業を知ってもらおうと、大学生が市内の事業者を取材しました。今回は、明治町商店街にある店舗「KATARIBA Café えそら」と、運営主体の「特定非営利活動法人 T・M・F」をご紹介します。

### トップインタビュー



T.M.F 統括  
菅野 幾さん

○最初に KATARIBA Café えそら（以下カフェえそら）、特定非営利活動法人 T・M・F（以下 T・M・F）について教えてください。

カフェえそらは、T・M・F が運営する、障がいや疾病のある人のための職業訓練の場です。ここで就労に必要な対人スキル等を身につけて、就職を目指します。カフェというスタイルで運営することによって、障がいのある人となない人が自然な形で気軽に交流できる場となっています。

また「えそら・まっぷ」という広報誌を定期的に発行しており、私たちの活動をお伝えするだけでなく、地元情報の発信基地としての役割も持っています。

T・M・F では、障がいのある人が就労によって社会とつながるためのサポートを行う、障がい福祉サービス事業を展開しています。ちなみに T・M・F とは「Thank（感謝）、Mind（知性）、Future（未来）」の頭文字からとっていて、感謝の気持ちを忘れず、知

性を活かして未来の可能性を拡げる、という意味です。

○障がいのある人に対し、どのような思いで支援をされているのか教えてください。

皆さんがどうすれば自立できるのか、就職に結びつくのか、そのためにはどのような障がい福祉サービスを活用すれば良いのか、と常に考えています。また、世の中に対しては、健常者との様々な壁をどう崩していくのか；健常者が絶対ではないし、障がいのある人を特別扱いするのでもない、あくまでフェアでありたいと思っています。

歩けるかどうか、目が見えるかどうか、耳が聞こえるかどうか等、人それぞれが持つ様々な個性の中で、「障がい」と呼ばれるものがあることが、つらかったり悲しかったりする理由にはならない、誰もが自分の持っている力を発揮して生き生きと暮らせる世界、そんな未来を思い描きながら、人々を社会へつなぐ支援です。障がいがあってもなくても関係がないと思える社会に、一歩でも近づけるような支援ができれば最高だと思っています。

○カフェえそらを卒業した人たちの交流はあるのですか。

就職はゴールではなく、あくまでもスタートです。そのため就職後の定着支援として実際に職場を訪問して、困っていることや悩み等、仕事面・生活面問わず色々と相談に乗ります。また、就職された方がカフェえそらまで



来てくださることもあります。色々とお話することで、元気に過ごされていることや、頑張っていて仕事を続けられていることが分かることも嬉しくなります。

○事業をする上で障がいのある人とコミュニケーションを図る際に心がけていること、大切にしていることはありますか。

話すことを苦手とする人が多いので、はじめは趣味の話や好きな話題から入って、話しやすい環境を作るように心がけています。さらに互いの距離を縮めて信頼関係を築くために、この人はどんなことで楽しいと感じたり、笑ってくれるのかを見つけて、接する際にユーモアを取り入れることも大切にしています。

また「障がいがあるから〇〇できない」と決めつけて接しないことです。困っている人に対して全部手助けするのではなく、その人の潜在能力を引き出せるように導くことを心がけています。それらの積み重ねが「できる」という自信につながり、自立へのステップとなります。

○ここで就労訓練を受けた人が、いざ社会に出て困難に直面したときのために、どのようなアドバイスがされていますか。

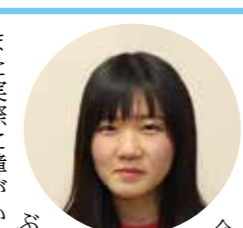
人は誰も他人に否定されると自信を無くしてしまいます。訓練中は、何か失敗をしても「ダメ」と一方的に否定するのではなく、



サンドイッチセット

平日 10 食限定のスペシャルメニュー  
カフェえそらのメンバーさんが試行錯誤して作り上げたワンコインランチ

### 取材を終えて



今回のインタビューが初めてで、非常に緊張しました。インタビューを通して福祉に対する新たな見方や考え方について学ぶことができました。

また実際に障がいを持ち越えようとして施設で訓練をされている方とお話する機会を設けていただき、良い経験となりました。

（北九州市立大学 2 年生 神崎茜）



障がいのある方は様々な問題を抱えていると思われがちですが、私たちが同じようにどんなに悩んでも解決できないこともあります。これから先、いつ誰かの助けを必要とするのかも、いつ私が誰かの助けを必要とするのかも分かりません。そのため、えそらカフェで取り組まれている「恩送り」という言葉が改めて心に響きました。

（北九州市立大学 2 年生 李玉青）



### カフェえそらの「恩送り」

ある人から受けた恩を、直接返すのではなく、その感謝の気持ちを他の人に送る。これが繰り返されると幸せの連鎖が生まれる…店内にあるカードにメッセージを添えて、コーヒー1杯を送ろう！



秋吉 景子さん

### メンバーさんに直撃取材

○この活動を始めたきっかけを教えてください。

T・M・F のスタッフさんから、カフェで店内業務を行う訓練があると紹介され、もともとカフェが好きだったこともあり、体験参加しました。そのときのカフェえそらでの活動がとても楽しく、また温かな雰囲気だったので、カフェえそら中心の活動に励むことに決めました。

○ご自身が行っている業務について教えてください。

接客業務・キッチン業務・レジ業務・店内業務全般に携わっています。接客業務では、注文をとること以外に、お客様とのコミュニケーションが必要となります。キッチン業務では、お客様を長くお待ちせしなように迅速な調理を心がけています。

○業務に取り組む際に心がけていることはありますか。

業務が忙しくなっても口調がきつくならないよう、常に丁寧な言葉遣いで対応することを心がけています。また日によってメンバーや業務の担当が変わるので、自分から声をかけ、コミュニケーションをとり、意思の共有を図ることを大切にしています。

○カフェえそらの業務を通してやりがいや幸せを感じる瞬間はどのようなときですか。キッチン業務で、仲間と協力して作り上

- 店舗名：KATARIBA Café えそら
  - 運営主体：特定非営利活動法人 T.M.F
  - 所在地：古町 1-18
  - TEL・FAX：22-1120
  - ホームページ：http://tmf-workhard.com
- ※事業内容については、  
特定非営利活動法人 T.M.F 就活サポートセンター わーく・はーと  
TEL：24-2755 FAX：28-8521 までお問い合わせください。

●この記事に関する問い合わせ先  
商工観光課工業振興係 (TEL 29-3155)